

<第50回調査>

2013年07月29日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2013年07月16日(火)13:00～2013年07月23日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。
今回の有効回答数は790件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

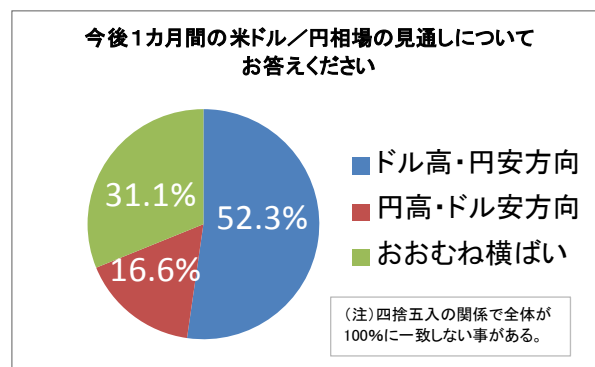
Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第50回調査結果略報：再び「米ドル強気」との見方優勢に】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

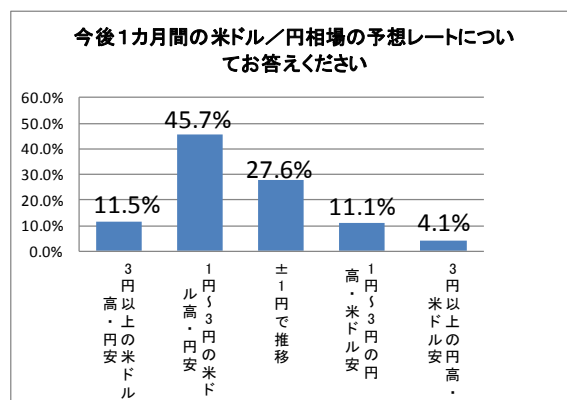
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が52.3%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は16.6%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+35.7ポイントとなり、マイナスとなった前回から大きく切り返した格好だ。調査期間中の米ドル/円相場は、米連邦公開市場委員会(FOMC)や米6月雇用統計の良好な結果を背景に大幅に米ドル高・円安が進んだものの、100円を超えたところで一旦膠着感が出てきている時点だった。しかし、米国の金融政策が引き締めを睨んだものに変化がない状態が意識され、米ドルを強気とみるFX投資家が大幅に増えたものと考えられる。

※過去の 米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が45.7%と最も多く、「±1円で推移」が27.6%と続いた。「3円以上の米ドル高・円安」は11.5%、「1円～3円の円高・ドル安」は11.1%とほとんど差がなく、「3円以上の円高・米ドル安」は4.1%、という順となった。ヒストグラムの形状は「1円～3円の米ドル高・円安」を軸とする山形となっているが、「3円以上の米ドル高・円安」よりも「±1円で推移」を見る向きの方が多い。問1で挙げたような米金融政策に対する観測から6月後半から米ドル高・円安で来たものの、調査期間中のドル/円の上値の重さから、FX投資家は比較的ゆっくりとした相場展開を予想していると言えそうだ。

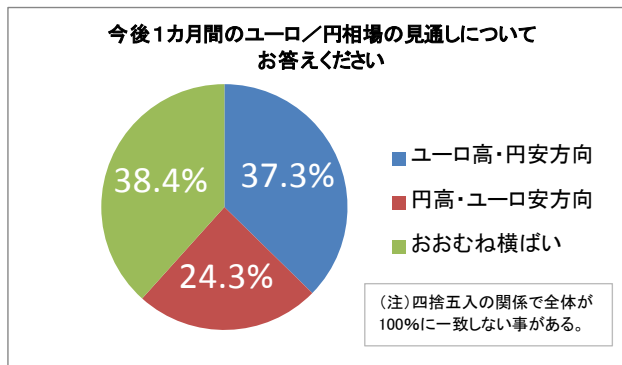


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

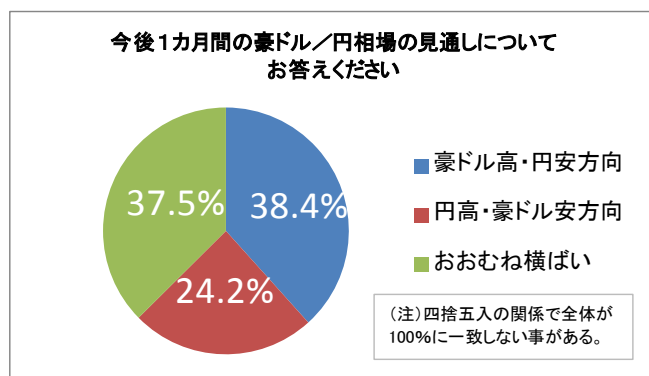
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が37.3%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が24.3%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は+13.0ポイントとなり、昨年11月の第42回調査以来7カ月ぶりにユーロ弱気・円強気予想となった前回から、ユーロ強気優勢に転じた。しかし、回答割合が最も高かったのは「おおむね横ばい」である。調査期間中のユーロ/円相場は、欧州債務問題に関する特段の懸念も拡がらず、ドル中心相場の中でジリ高基調となった。「ジリ高」を背景にユーロ強気派がユーロ弱気派を上回ったとみても、「クロス円が主役の相場ではない」とFX投資家層が認識していることが「おおむね横ばい」に回答が集まる結果に繋がった可能性がある。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が38.4%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は24.2%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+14.2%ポイントと、3カ月ぶりのプラスとなった。ただ、ユーロ/円と同様、「おおむね横ばい」に対する回答割合が37.5%と、かなり高い。調査期間中の豪ドル/円相場は、他のクロス円と同様、ジリ高基調ではあったものの、ドル中心相場の中で方向感が出にくい状態。為替市場の主役が米ドルで有る状態が当面続くと考えられる中、今後クロス円が大きく動く見通しを持つFX投資家が少なくなっているものと考えられる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

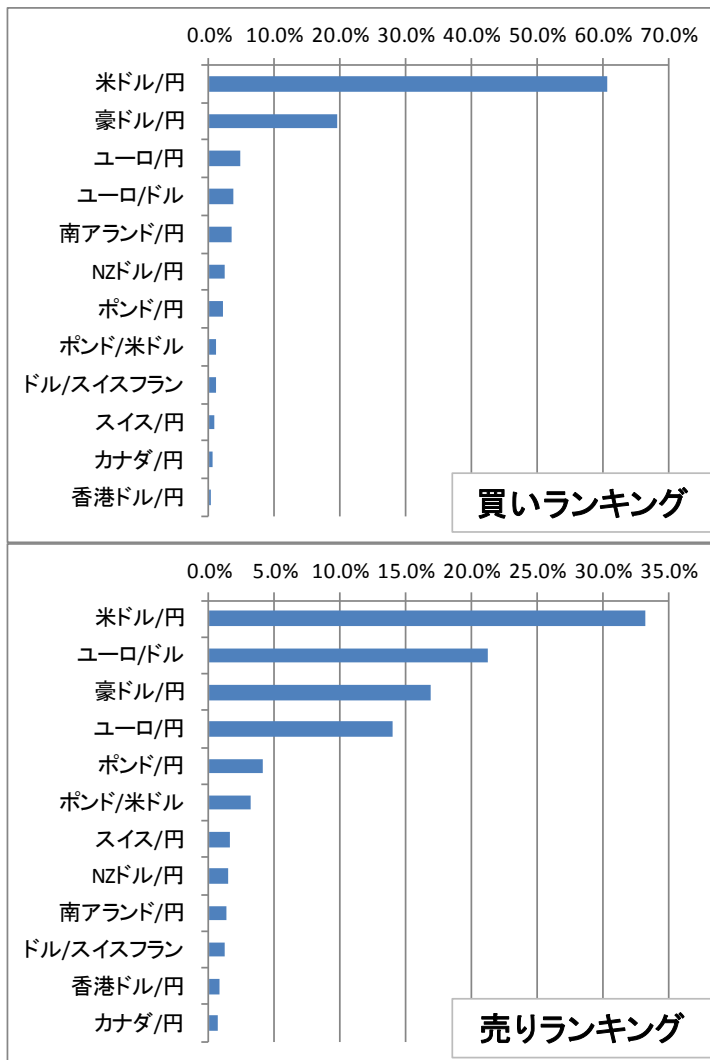


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(60.6%)、2位豪ドル/円(19.5%)、3位ユーロ/円(4.7%)、4位ユーロ/ドル(3.8%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(33.3%)、2位ユーロ/ドル(21.3%)、3位豪ドル/円(17.0%)、4位ユーロ/円(14.1%)、となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が1位の座をキープ。さらにその回答割合は前回の48.7%から大きく伸びた。一方、「売り」で注目の通貨ペアでは、米ドル/円は依然として1位を保持した。米ドル主導の相場の中で、買うにしても売るにしても米ドル/円が注目されるのは自然と言える。ただ、「売り」で注目の通貨ペアについて、前回4位であったユーロ/ドルが2位に浮上しており、その回答割合も前回の13.5%から上昇した点に注目したい。上述の通り、米ドル主導の相場が続いており、クロス円の動きが鈍くなる中、前回3位だった豪ドル/円(22.4%)がその回答割合を減らし、ストレートドルに票が動いている点は興味深い。ちなみに、ポンド/ドルも前回の8位から今回は6位に浮上してきている。

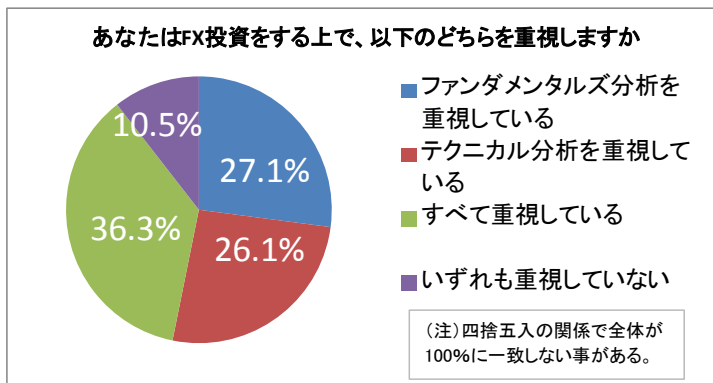


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

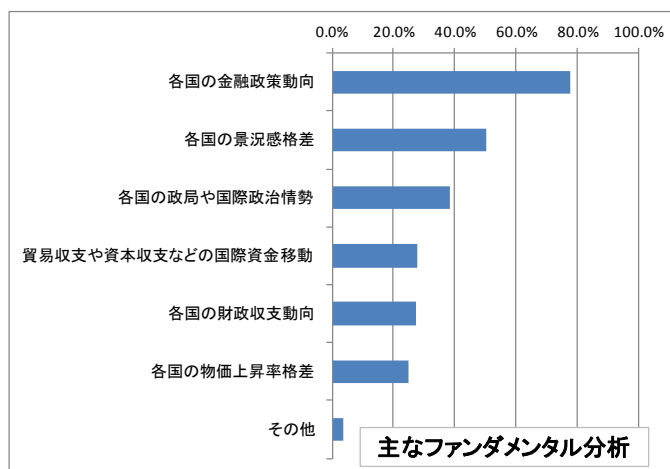
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が27.1%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が26.1%と、ほぼ拮抗しており、「すべて重視している」が36.3%と最も回答割合が高かった。前回調査から「ファンダメンタルズ重視派」が増加(前回:26.6%)した一方で、「テクニカル重視派」が減少(前回:27.2%)した点に注目したい。調査期間中、円相場は膠着状態となっており、FX投資家はテクニカルをうまく活用出来なかった可能性がある。なお、「すべて重視している」は前回(35.6%)からやや伸びている。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか? (いくつでも)

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(77.7%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(50.2%)」、「各国の政局や国際政治情勢(38.5%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(27.7%)」、「各国の財政収支動向(27.6%)」、「各国の物価上昇率格差(25.0%)」の順に続いた。「各国の金融政策動向」が、依然として圧倒的な支持を集めている。米国の量的緩和の早期縮小観測や、欧州中銀による中銀預金金利のマイナス化、豪準備銀行(RBA)の追加利下げ観測など、各国・地域中央銀行による金融政策変更観測拡がっている。また、「各国の政局や国際政治情勢」の回答割合がやや伸びたのは、日本の参議院選挙を意識した可能性がありそうだ。

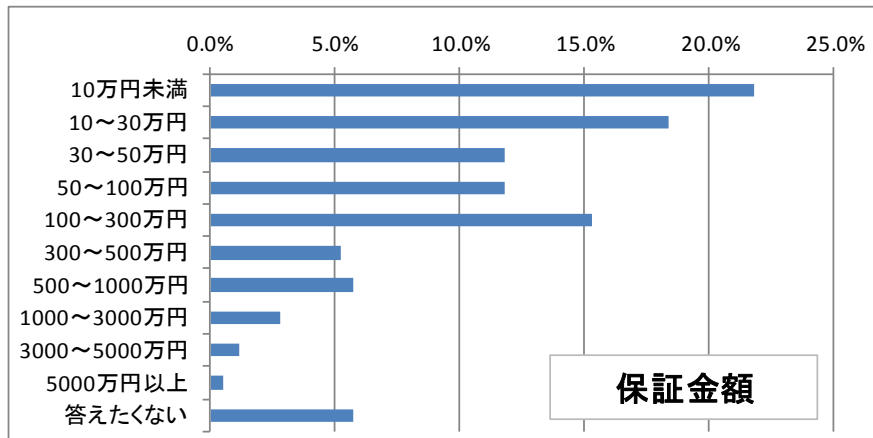


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

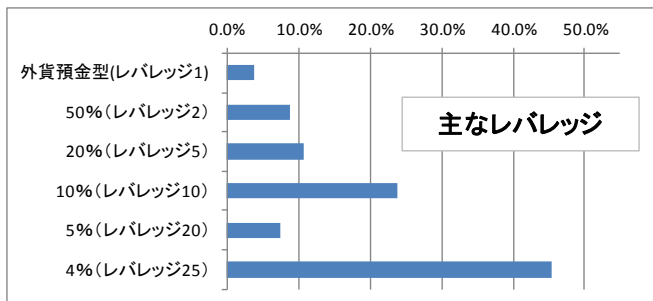
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が21.8%と最も多く、以下「10～30万円(18.4%)」、「100～300万円(15.3%)」、「50～100万円(11.8%)」、「30～50万円(11.8%)」と続いた。引き続き、小額の保証金で取引を行うFX投資家が多数を占めている事が示された。なお、「500万円以上」の保証金を用いて取引するFX投資家の合算割合は10.1%と、前回調査の9.1%からやや復調した。前月は為替相場のボラティリティ(価格変動率)の高まりとともに、高額保証金を用いた取引を手控えざるを得なかったことからこの回答割合が低下した可能性を指摘したが、調査期間中の相場が落ち着いていたことで、高額保証金を用いた取引を行うFX投資家の積極性がやや戻っている可能性が考えられる。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が45.4%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が23.8%、「20%(レバレッジ5)」が10.8%と続き、以下「50%(レバレッジ2)」が8.9%、「5%(レバレッジ20)」が7.5%と続いた。最大レバレッジである保証金率4%(25倍)を主に活用する向きが引き続き最も多く、その回答割合はほぼ前回(45.1%)と同様であった。ただ、レバレッジ10やレバレッジ20が回答割合を低下させた一方、レバレッジ20やレバレッジ2が回答割合を伸ばす様子が見られる。問8のような状況後に足元の落ち着いた相場を受け、レバレッジを拡大する層と、より慎重になろうとする層に分散した様子が見受けられる。なお、今回の調査に回答を寄せたFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は16.0倍と、前回調査の15.8倍から小幅に上昇した。

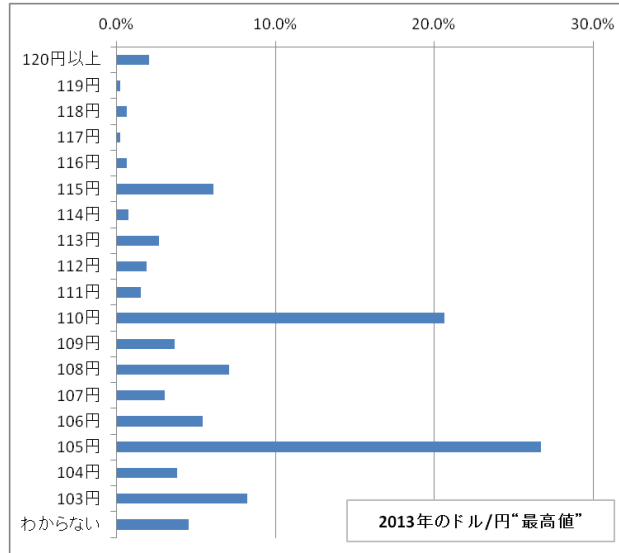


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

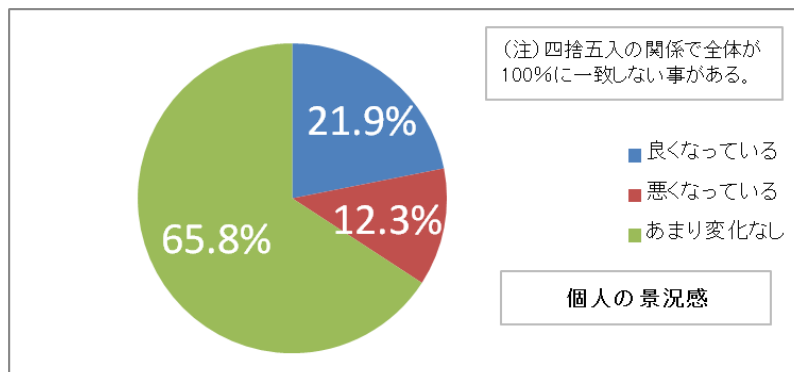
問10: 2013年のドル/円“最高値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として「2013年のドル/円“最高値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「105円(26.7%)」が最も多く、次いで「110円(20.7%)」と、この2つに回答が集中した。米ドル強気の予想は変わらずも、今年5月につけた高値103.73円までなかなか勢いがつかない中で、「105円」を見る向きが「110円」を上回ったものと考えられる。なお、全体の78.6%が110円以下の回答となっているが、「115円以上」を見る向きも9.9%(合算割合)と1割近くもあり、大幅な米ドル強気・円弱気を見通す向きも根強い様子がうかがえる。



問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

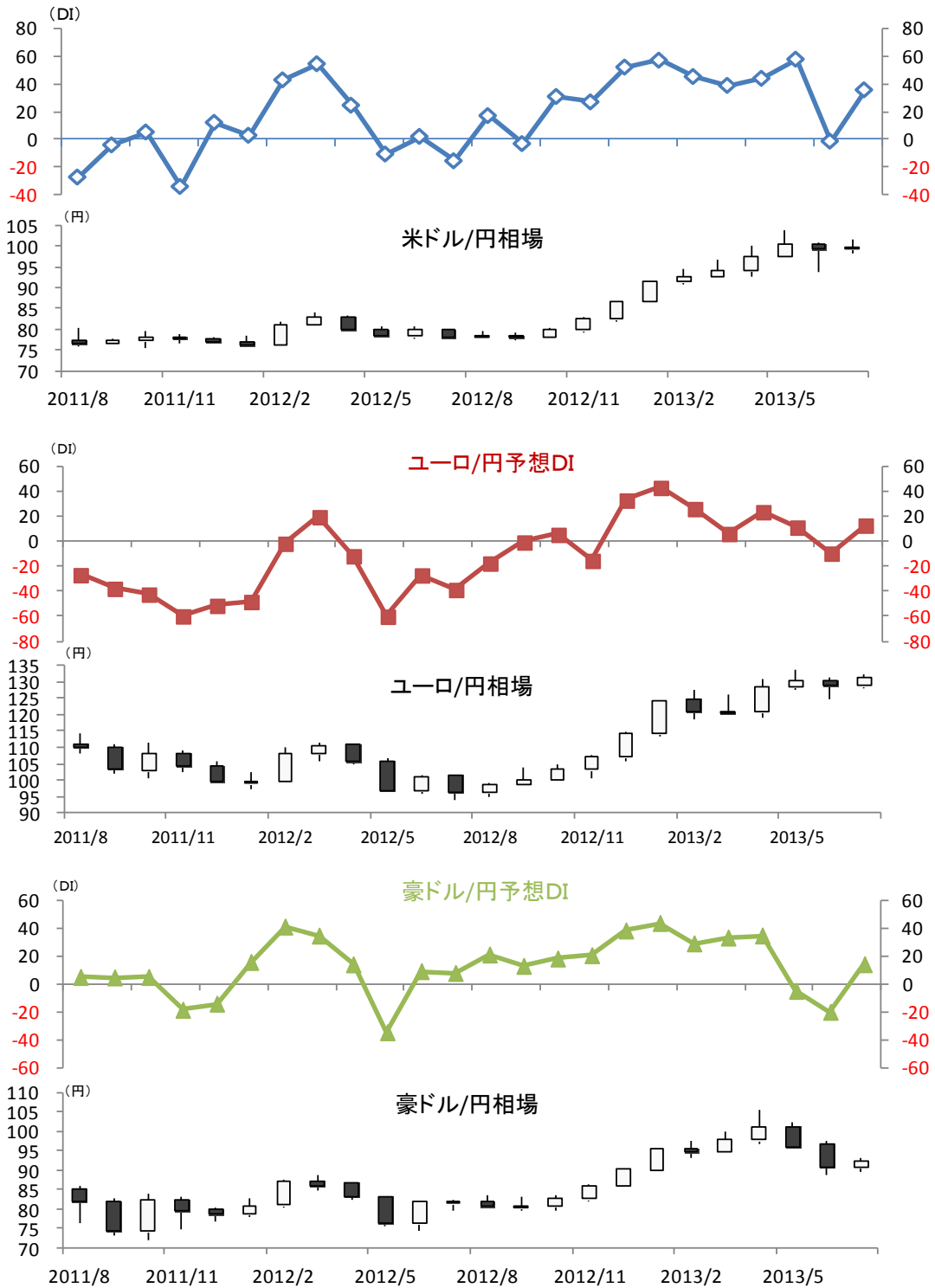
今月のもうひとつの特別質問項目として「あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」が21.9%、「悪くなっている」が12.3%、「あまり変化なし」が65.8%という結果であった。本質問は特別項目として3カ月に一度の頻度で調査しているが、前回の4月調査(第47回調査)時点から「良くなっている(22.7%)」が減少した一方で、「悪くなっている(11.6%)」は増加した事になる。「あまり変化なし」はほぼ前回(65.7%)と同水準となった。黒田日銀総裁の質的・量的緩和直後は株高が続き、景況感について「好転」と見ていた層が、足元の「次の一手が出てこない」状況下で失望感から「悪くなっている」との見方に転じた可能性がある。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第50回目となりました。調査開始から4年が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2011年	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com